

# アナリストの眼

## Society 5.0実現に向けての未来投資戦略

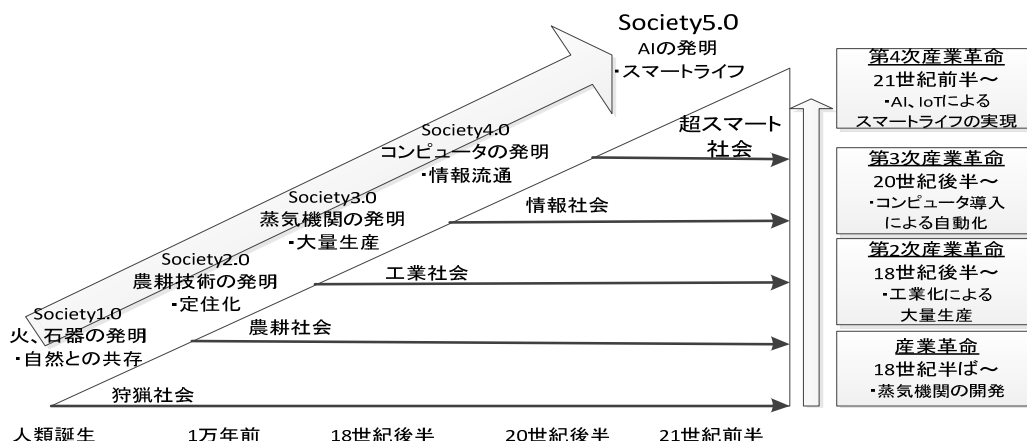
### 【ポイント】

1. 第4次産業革命により Society5.0（超スマート社会）の実現が見えてきている。
2. 政府は未来投資戦略を公表し Society5.0の実現に向けて、民間とともに戦略的な取り組みを開始している。
3. Society5.0の実現のため、幾つものプロジェクトが計画されており、今後本格的に立ち上がることが予想される。
4. 人口の減少、高齢化など社会課題に直面している日本は、Society5.0を進めるうえで他国に比べて優位な環境にあるといえる。社会構造の変化という重要な局面にあり、スピーディーで大胆な戦略の実施が期待される。

### 1. スマートライフを実現する Society5.0

人間社会は火や石器を発明した狩猟社会 (Society1.0) から始まり、農耕社会 (Society2.0)、工業社会 (Society3.0) を経て、今は情報社会 (Society4.0) にある。一方で、18世紀半ばに英国で蒸気機関の開発により起こった産業革命は、その後フランス、ドイツ、アメリカなどに広がり、工業化による大量生産を可能とした第2次産業革命をもたらし、時を経てコンピュータの開発により情報社会を実現した第3次産業革命へと発展した。そして、足元ではAI(人工知能)、IoT (Internet of Things) など新しいテクノロジーの開発が続いており、第4次産業革命の波が到来しているといわれている。この第4次産業革命により、遠い未来の夢物語と考えられていた Society5.0 と定義された超スマート社会が現実のものとなりつつある (図表1)。

図表1. 超長期でみた人間社会の変遷



(資料) 各種資料より富国生命投資顧問(株)作成

Society5.0を実現するキーテクノロジーを人間の身体に例えるとAIが頭脳、センサーが眼、IoTが神経、そしてロボットが筋肉といえよう。これらのテクノロジーが融合され、リアルデータと呼ばれる実社会で生み出されるビッグデータを最大限に活用することなどに

より、人々の生活や産業などが劇的に変化することになる。

「AI、IoTを制するものがすべての産業を制する」といわれ、世界中で先端技術の開発競争が繰り広げられているが、Society5.0の実現を見据えた企業活動といえよう。

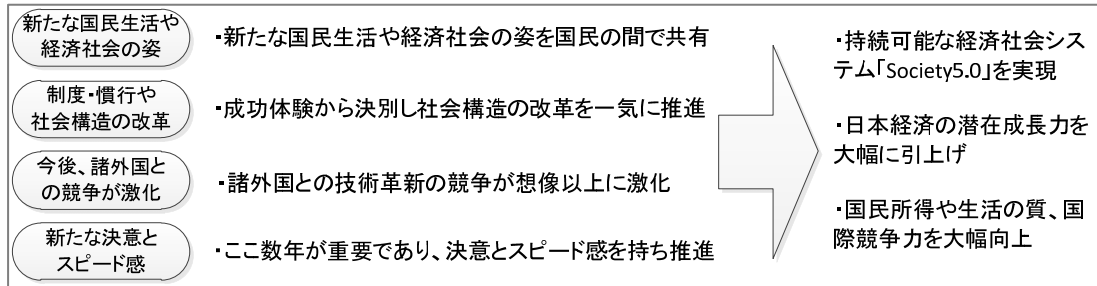
## 2. 未来投資戦略による Society5.0 の実現へ向けた取組み

こうした時代の変革にある中で、政府は Society5.0 を実現するために、未来投資戦略を公表し、民間とともに展開し始めている。この未来投資戦略は、もともとは安倍政権から示された日本再興戦略であったが、現況に合わせ新たな戦略が打ち出され、実態に合わせた名称に変更されている。政府の経済政策の中核的な戦略であることは間違いないだろう。

2017年6月に公表された「未来投資戦略2017」では、アベノミクスの成長戦略の成果、今後の取組み、そしてフォーカスすべき分野が明示されている。また、2018年6月の「未来投資戦略2018」では Society5.0 の実現のための戦略的な取組み（図表2、3）に加え、どのように社会が変化するかがより具体的に示されるとともに、今後取り組む重点分野とその変革をけん引するフラッグシップ・プロジェクトが打ち出されている。

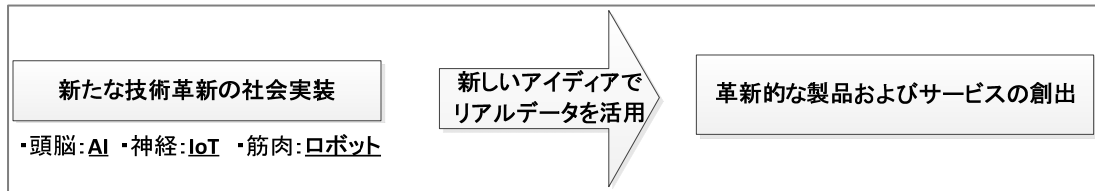
今後のスケジュールとしては、既に行われている未来投資会議を司令塔とし、重点分野についての「産官協議会」を立ち上げて、Society5.0 の実現のために必要な施策などを2019年の夏までにまとめることとしている。年内に決定する来年度の予算案にもプロジェクトの投資などは織り込まれ、次の国会では Society5.0 実現のための税制改革、規制改革も併せて決定されると考えられる。「産官協議会」は、現場に近いプレーヤーが参加することで、官民の叡智（えいち）を結集し、迅速かつ実行可能な施策を打ち出す方針である。コンセプトとして、試行錯誤しながら「まずやってみる」というスピード重視のプロセスを掲げており、今後プロジェクトが本格化することが予想される。

図表2. Society5.0 実現に向けた戦略的な取組み



(資料)内閣府資料より富国生命投資顧問(株)作成

図表3. 第4次産業革命による技術革新



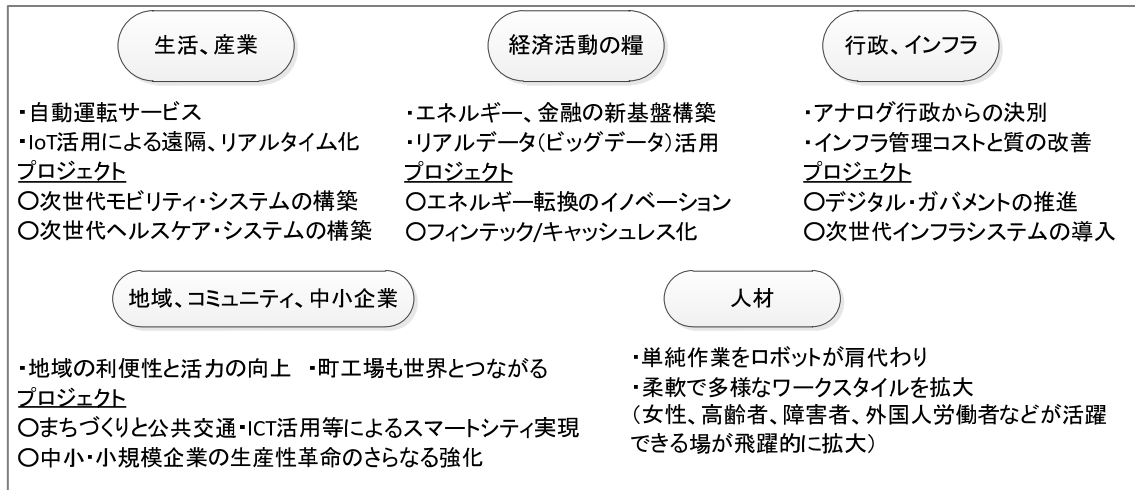
(資料)内閣府資料より富国生命投資顧問(株)作成

## 3. Society5.0 の実現のためのフラッグシップ・プロジェクトを展開

「未来投資戦略2018」で示されている社会の変化は、全方位的な内容となっている。重点分野と位置付けて推進するフラッグシップ・プロジェクトは、①次世代モビリティ/ヘルスケア・システムの構築、②エネルギー転換に向けたイノベーション、③フィンテック/キャッシュレス化、④デジタル・ガバメントの推進、⑤まちづくりと公共交通・ICT（情報通信技術）活用などによるスマートシティの実現、⑥中小・小規模企業の生産性革命の

強化、などである（図表 4）。

図表 4. Society5.0 実現に向けての新たな展開



(資料)内閣府資料より富国生命投資顧問(株)作成

それぞれのプロジェクトには KPI（重要な業績評価指標）が設定され「いつまでに、どのように、どのくらい実施する」が明確に示されている。

我々にとって身近なのは、既に本格的に実験が開始されている自動運転（次世代モビリティ・システムの構築）だろう。2020 年には公道での地域限定型の無人自動運転移動サービスの開始を計画しており、自動運転によるビジネスが実現する日は近いと考えられる。これにより、ドライバーなど人手不足の解消や事故の減少などを含めた物流改革が進展しよう。次世代ヘルスケア・システムの構築は、ICT を活用した遠隔での医療サービスであり、これも高齢化が進展する日本ではなくてはならないサービスといえる。こうしたサービスは医療のみならず、教育など様々な分野に展開ができ、地方の活性化にもつながろう。中小・小規模企業の生産性革命は、IoT・ロボットの導入などであり、中小の町工場が世界とつながる仕組みを作ることが実現する。今後、これらのプロジェクトが立ち上がり、我々の生活や産業が大きく変貌する新しい社会である Society5.0 が現実となることを想像するのは難しくないだろう。

#### 4. 優位な環境を活かしたスピーディーな戦略の実行に期待

未来投資戦略により戦略的な取組みを開始しているが、米国、中国なども類似した構想を進めており、日本が先行している状況とは言い難い。一方で、これらの国と比べると日本は人口減少、少子高齢化、エネルギー問題など様々な社会課題に直面しており、第 4 次産業革命による課題の解決を最も迫られている。このことは、新技術の導入の際の障害といわれる失業問題などの社会的な摩擦が起こるリスクが小さく優位な環境にあるといえよう。また、技術面からは IoT のソフトウェアでは遅れている面は否めないものの、自動車、ロボット、センサーなどでは世界トップであり、今後の取組み次第では世界をリードすることは十分に可能と考えられる。

歴史が示しているように、社会構造が変化する局面では国家間のポジションが大きく変わることも考えられる。今は情報社会から超スマート社会に移行している局面であり、官民の協力により、世界に先駆けて Society5.0 を実現することが、日本が成長力を高め飛躍するための道といえよう。優位な環境や高い技術を最大限に活かしたスピーディーで大胆な戦略の実行に期待したい。

(富国生命投資顧問 (株) ストラテジスト 山崎 総一)